



で行くときにすねを払われて一本取られていたので、引き分けになったのですが、真剣勝負だったら私の負けでした。これは試合に出る前に、姉と兄から薙刀は離れているとふり回されるから、すぐ近寄っていけと教えられていたので、その通りにやったわけです。相手の女子は何という名前か、どこから来た選手だったか知りませんが、兵庫県から大勢来ていたので兵庫県の人だったかもしれません。大きくなつてから兵庫県に有名な女性の剣客がいたので、その人だったかもしれないと思つたことがあります。こどもたち二人が薙刀と竹刀とで初めて試合をしたものですから、会場は総立ちになつたということの後で聞き、いまだに覚えています。

長崎の近くに矢上村というところがありました。今は長崎市に編入されていますが、そこに道場ができて道場開きがあり、私も参加したのでした。試合が始まつて私が出るころになると大きな人ばかりです。こっちはまだ小学校の小さなこどもですが、相手は身体の大きな田舎の若者です。私はそれを二人ほど負かして三人目だつたと思います。相手のとても大きな若者が頭の上から打ちおろすので支えきれず、力まけて頭をたたかれ、そのたびごとに目がくらんでしまうのです。審判がそれを見て引き分けにされたのです。頭を打たれる前に私も一本取つていたのでしよう。それからあとはどうなつたかわからず、人事不省におち入っていたのです。気がついたときは、看護婦さんに抱かれて介抱されているときでした。